

午前中に手術を済ませて夕方には帰宅できる日帰り手術が広まっている。専門の診療部門・病棟を設ける総合病院が増え、日帰り手術が専門の病院も登場。日帰り手術用の保険、診療報酬など制度も整い始めた。ただ、便利さばかりに着目するのは禁物。日帰り手術の長所短所を把握することが大切と専門家は呼びかける。

専門の部門や病院も登場

九九五年に専用の「日帰り手術センター」を設けた湘南鎌倉総合病院(鎌倉市)では年間約五千件の手術のうち、ほぼ半数が日帰り手術という。

生保が商品提供

子宮筋腫の治療にも日帰り手術が浸透してきたことから、昨年の診療報酬の改定では日帰り手術の基本料が定まり、日帰り手術を対象にした保険を生保が提供し始めるなど制度も整ってきた。

一方で専門家は患者のより一層の自己管理が必要だと注意を促す。北青山Dクリニックの阿保院長は「日帰りということでも安易に考え、訪ねて来てすぐに手術を頼む患者もいる」とい

ない。小さな穴を開けず済むので、その分、患者の負担は軽い。高齢女性に多い尿失禁の簡便な治療法も来月から導入する。

日帰り手術、リスク把握を

日帰り手術のスケジュール
(湘南鎌倉総合病院の例)

外来受付	診察や必要な検査を行う
外来再診	医師による検査結果の評価、日帰り手術のできるかの決定、患者の承諾
専門の看護婦との面談	手術前のオリエンテーション
手術室での麻酔・手術	患者は当日朝、日帰り手術センターに来る
回復休養	執刀医による回診
退院許可	専門の看護婦による服薬・食事指導
会計	会計を済ませて退院
電話訪問	手術翌日、専門の看護婦が痛みや出血の有無を聞きアドバイスする
職場(学校、日常生活)復帰	早い場合では、手術の翌々日から復帰

患者の責任大きく

きた」と阿保義久院長は話す。予約が一カ月先まで埋まっているという。

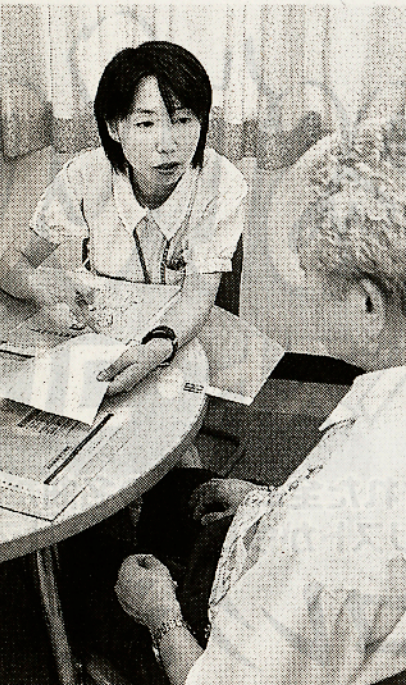
基礎疾患なしが条件

ホームページには問診表があり、メールで症状を相談できる。患者の半数はネット上の問診を経て来院する。日帰り手術が可能かどうかは直接診察して判断する。適応疾患であること、糖尿病などの基礎疾患がないことなどが基準となる。

胃や食道にできた大きながが二、三センチの良性のポリープは内視鏡で確認しながら焼き切る。しみやいぼを取

東京・渋谷にある北青山Dクリニック。名称のDは「デイ・サージャリー(日帰り手術)」からとった頭文字で、日帰り手術を専門とする。昨年十月に開院、インターネットのホームページで日帰り手術を宣伝したところ、「予想以上の反響ですぐに患者が集まって

日帰り手術のメリットは、日常生活や仕事へ早く復帰できること。治療費も入院治療より二、五割安くなる。米国では全手術の約七割が日帰り手術。日本でも割合は高まっている。一



患者に日帰り手術の説明をする専門の看護婦(鎌倉市の湘南鎌倉総合病院)

日帰り手術も通常の手術と同様に、事前の診察・相談が必ずある。術後も無理をせずに安静にすることが欠かせない。医師や専門の看護婦から注意事項をきちんと聞いておくことが大切だ。